

太田ユネスコ協会

次長 中村 利光

当協会は、英語キャンプ、国際理解バス、作品展、高校弁論大会を、特に大きな事業として力を入れてきている。今回は、諸外国交換ユネスコ児童生徒作品展について、詳細に触れてみたい。

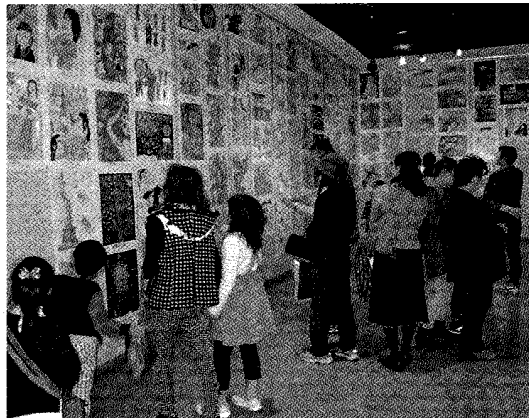
作品展は、今年で第四十八回を迎え、毎年十一月下旬の三日間、太田市学習文化センターで開催している。今年は、市内の全小・中・特別支援学校と保育園・幼稚園の計九十八校園から、絵六五三点、書三二二点の計九七四点が出品された。また、この事業の趣旨にご賛同いただいた三十の機関や団体から、毎年、賞の授与や援助金をいただいている。

応募依頼の送付は、担当校長（ユ協会会長）が八月に行った。また、理事が手分けし、賞状の作成や団体等に賞下付申請を進めてきた。十一月二日に担当校長の体育館で作品受付を、五日には太田市教委・校長会・太田美術協会より二十名の審査員の派遣をいただき、審査を行った。十一日は理事だけでは十分対応できないため、十一日からPTA役員二名ずつの協力を得て、会場壁面に作品を飾る準備を、二十日には他の十八校から二名ずつの協力を得て、会場で展示作業を行った。高所での作業も多く、十数名の男性の応援もあり助かっている。

二十一日からの作品展当日の受付は、理事が交代で行った。園・学校・市民の

関心も高く、家族連れの方が多く、三日間で四九五〇人程の来場があった。二十三日は、残りの十五校から二名ずつの応援を得て、片付け作業を行った。十二月一日は体育館で作品・賞状・礼状の袋詰め等、返却の準備作業を、二日には作品の返却を行い、一連の事業を終えた。

この作品展は来場者が多く、作品鑑賞や家族のふれあいのよい場ともなっており、今後とも充実に努めていきたい。



児童生徒作品展

前橋ユネスコ協会

前橋ユネスコ協会のいくつかの事業活動を紹介します。

まず、児童絵画展を紹介します。今年度の児童絵画展は、「私の住みたい夢のまち」をテーマに、市内の小中学校に募集を募ったところ、夏休みを終えて

参加した応募総数は、一一五四点であった。審査してみると、なかなかの力作が多く、しかも丁寧に詳細に描き込んでいる作品が多く、テーマももちろんだが、絵画展を意識して絵を描いており、高い関心をしていることに驚かされる。九月二十六日〜十月十四日の間、前橋プラザ元氣21に、選考した優秀な作品を展示。多くの市民の目を楽ませた。

次は、文化講演会を紹介します。

今年度は、「教育の貧困」と題して講師に阿部彩さんを迎えて、十月十六日（金）前橋商工会議所を会場にユネスコ文化講演会を行った。負の連鎖と同様に教育の貧困が連鎖を呼んでいることなど、社会としてどう対応していくのかというテーマでの講演であったが、教職者などに関心が高いテーマの講演会であったことから、聴講者の聞き入る姿勢が真剣そのものであった。

さて、次に紹介するのは、十月五日に世界遺産を毎年巡っている「水見ユネスコ協会」が、前橋ユネスコ協会を訪ねて来たことを紹介しよう。

この日、坂本水見ユ協会長以下十一名の役員の皆さんは、県庁の「ぐんま花燃ゆ大河ドラマ館」の見学と、庭屋前橋ユ協会長ら前橋ユ協の役員と群馬会館で情報交換を行った。前橋ユ協も、世界遺産めぐりをしようという視察研修を行ったことがあるが、毎年、水見ユネスコ協会では研修視察を行っているという、水見ユ協の研修視察に対する真摯な姿勢には驚きであった。群馬県庁の南にある「清

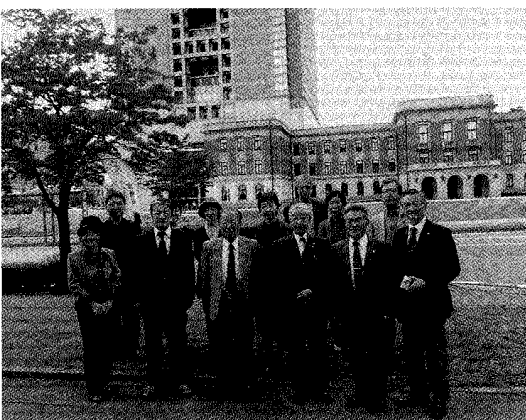
光寺」に水見から奥様が嫁いでいるという縁も驚きであった。

最後に、前橋ユネスコ協会のもうひとつの取り組みについて紹介します。

前橋ユネスコ協会は、市立図書館が廃棄する図書に着目して、廃棄する図書の中でも児童書の寄付を申し立て、寄付を受けている。

前橋ユネスコ協会が関わっている「インドネシア共和国バリ州」と「大韓民国釜山市」に、寄付を受けた廃棄予定の図書をプレゼントしているのである。廃棄図書といっても、何の問題もない本ばかりであり、これを新品で買うとなれば、それ相当の資金が必要であるが、もちろん無料である。送った先でも大変喜ばれているのである。

皆さんの協会でも、地元の教育委員会とご相談をされてはいかがかと提案である。



水見ユネスコ協会の皆さん